

ご門主熊本地震の被災寺院へ

ご門主は6月13、14日、熊本地震の被災地、熊本、大分県教区を見舞われた。熊本県益城町や南阿蘇村をはじめ、大きな被害を受けた寺院を中心に訪ねられ、住職や門信徒の声を直接お聞きになられた。最後は集まった人たちの手を取られ、お見舞いのお言葉を述べられた。

ご門主は13日、大きな同中央区の正教寺で、僧侶や門信徒に向けてお言葉を述べられた。蘇北組（益城町・浄信寺）、蘇北組（益城町・光雲寺）、蘇北組（南阿蘇村・光雲寺）、葉を述べられた。同別院で、ご門主は、このたびの地震で犠牲になっていったき、倒壊したままの家屋、更地になった



手を取り お見舞いのお言葉



震度7の地震で本堂と庫裏が倒壊した熊本県益城町の専寿寺。ご門主は高千穂義静住職に地震直後から現在までの状況を聞かれた

本堂などを目の当たりにしました。通常の生活に戻るまで、多くの時間がかかるという印象を受けました。被災された方々の生活の復旧はもとより、お念仏のみ教えを依りどころとされる方々が、再びお寺にお参りしていただけるように、宗門の皆さまと共に努めてまいります」と話された。

出席した僧侶や門信徒からは「ご多忙の中をお越しいただき、とても有り難く力になりました」といった声がかれた。

また、ご門主は、本堂に大きな被害を受けた寺院などを訪ねられた。本堂、庫裏が全壊した益城町の専寿寺では、地震直後の写真をご覧になりながら、高千穂義静住職から「ご門徒も家に住むことができません、寺院の

復旧はめどが立ちませんが、そんな中でも、宗派の方たちのボランティアに勇気づけられていました。山田敬史住職が一本堂が無くなり更地となりました。地区のほとんどがご門徒で、8割が被災されました。地震直後は境内にある保育園に70人が避難され、私設の避難所となりました。国や自治体からの支援はなく、宗派や寺院からボランティアや物資の支援をいただきました。ご門徒同士が互いに励ましあう姿に、仏法を見ました」と話した。

翌14日は大分教区をご訪問。由布院稲の組事務所（大分県由布市・長因寺）、同市の西蓮寺と明蓮寺、別府市・別府別院をお見舞いされた。



南阿蘇村を訪ねられたご門主。正教寺では山村匡亮住職から地震被害と、雨による二次災害の危険性の説明を受けられた